

講演会の感想	ハンセン病の家族である子ども(本人はハンセン病ではない)が地域の小学校に入学できなかった事件について、あなたの考えを述べなさい	国の隔離政策と社会の偏見が、ハンセン病患者を厳しい環境に置きました。あなたが最も印象に残ったことは何ですか
1 ハンセン病を患った人の人生などを知ることができた。またその生涯について知り、今の世界の現状と比べることができた	今だと入学させてあげべきだと思うが、昔のその時代に生きていたら、反対していたかもしれない	監禁室があった事
2 今まで私はハンセン病という名前は聞いたことがあったものの、どういものなのがよくわかっていませんでした。まず私が驚いたのは、ハンセン病にかかっただけで、差別されていたということです。感染してしまった人達はたくさんの偏見と差別に苦しんでこられたと思うととても心が痛かったです。ハンセン病というものを若い私たちが理解していくことで、差別はなくなると思います。ハンセン病だけではなくコロナ感染者に対する差別、医療従事者に対する偏見などをなくすためには、まずは知り、自分自身が当事者の目線で物事を考えていくことが大切だと思います。	周りにあったハンセン病の家族である子供達を受け入れなかった小学校はハンセン病のことを他人事として捉えていたためこのようなことが起こったのだと思います。今流行しているコロナもそうですし、いつ自分が感染するかわからない、いつ自分が当事者になるかわからない状況で偏見を持ち、差別するのはおかしいのではないかと思います。第三者目線でみるのではなく主観的に物事を考えていきたいと思いました。	私が最も印象に残ったお話は、妊娠してしまった場合中絶をしなければならないことです。命は自然に起こることで、人間が操るものではないと思っています。ハンセン病に対する正しい知識がなかったからこのようなことが起こってしまったと思います。ひとつの大切な命が奪われてしまったことを聞きとても悲しかったです。
3 ハンセン病については聞いたことがなかったのですが、今回の講演で患者やその家族が受けた差別などを知ることができて本当に良かったです。これは今のコロナでも当てはまることがあるので多くの人にハンセン病のことを知ってもらおうべきだと思います。	丁寧に説明をしてそれでもどうしても受け入れられないに反対な人は違う学校に移る。地域の小学校の保護者も自分がハンセン病になったつもりでハンセン病の家族の気持ちも考えるべきだと思う。	中絶した胎児が亡くなるまでの出来事を書いた文章が最も印象に残った。想像するととても悲しくなる。でも、こういった出来事を知って、これからいかにすべきかと思った。
4 私は初めてハンセン病について学習し、以前日本ではハンセン病に対する差別がとても強かったということを知り、衝撃を受けました。ハンセン病は人に移りにくい病気であり、特効薬も存在していたのに日本は「らい予防法」という隔離政策を患者さんたちに強制していたということは患者一人一人の人権の侵害にあたります。家族の一人が感染しただけで、感染した本人と家族は別々で暮らすことになり、その両方が差別を受ける環境におかれるということが起こっていたのが私には信じられません。(結婚後、一人の方の家族がハンセン病患者だったことが結婚相手にはばれてしまって離婚することになったという話は特に驚きました。)このことから、日本の政策は間違っている固定概念(ハンセン病についての間違った知識)を人々に広めてしまったということが分かります。たしかに、新しい感染症に対する情報が全くない時には人はそれを過度に恐れてしまうということはわかります。実際に、新型コロナウイルス感染症が広まり始めたばかりのころは、「(過去に)コロナウイルスに感染した」というだけで学校でいじめを受ける例があったというニュースを見ました。しかし、感染した本人ではない人がこのように感染症を過度におそれることが感染者本人をどれだけ傷つけているのかを理解する必要があります。今回の講演を聞いて、差別は自分の身にならないとわからないということを感じ、とても難しく感じました。しかし、ハンセン病の時のような差別や偏見を今後繰り返さないために、このハンセン病の話を知って広めていくことが大切だと思います。	以前行っていたハンセン病患者による国の政策によって、地域の人(国民)がハンセン病のことを過度におそれてしまったためこの事件が起こってしまったのだと思う。ハンセン病に関する正しい知識を本当に地域の人が持っていたのなら、地域の小学校に子供は入学できたと思う。これは、差別が子供たちから勉強する権利を奪ってしまっており、子供たちが普通の生活ができない状況に陥っていて、今後二度と許されてはいけないことだと思う。	ハンセン病患者の隔離政策です。治療所であるのに、患者は差別を受け、労働する必要があり、完治しても退去できず、子供を育てることもできない。これは、許されるべきことでなく、やはり人権の侵害です。二度とこのような過ちを繰り返してはいけないと思います。
5 自分は前回と今回の授業でハンセン病について知りました。なぜ、いつから、ハンセン病が日本で広まってどのような待遇や政策が行われていたかより深く知ることができました。ハンセン病からの教訓は今の新型コロナウイルス感染症に関係するなど改めて思いました。感染者がどのような気持ちで、感染者の家族もどのような差別や思いがあったのかを知れてよかったです。	実際に自分の子供が入学して幸せなのか考えてから入学させるか決めると思いますが、世間からの視点で物事を決めた方が自分への批判は少ないですが、受け入れる、受け入れないにしろそれぞれの良点を見極めてから入学させたりさせなかったりしたほうがいいのではないのかなと思いました。	まず、感染者は療養所に強制的に収容されて、またそこで動かされたりすることです。
6 今回は、ハンセン病の講演会をして下さってありがとうございました。私が一番衝撃を受けたのは、ハンセン病の療養所が刑務所のようなところであったということです。患者が患者の世話をしたり、療養所で悪事を働いた場合に牢屋のようなところに入れられたりしたことは本当に酷いことだと思いました。	今考えたら、それは酷いことだとは思いますが、その当時は、国が科学的に間違っていることを広めたりし、親が子を心配して、ハンセン病患者の家族である子供を入学させたくないという気持ちは分かるから、しょうがなかったのかもしれないと思う。	隔離政策は終わったのに、まだ療養所に1000人弱いることにとても驚きました。
7 ハンセン病の患者とその家族に対する差別があったことは、これまでも知っていたけれど、その実情は知らなかったの、講演会で差別がどれほど残酷なものだったか感じ、遠くない過去にそのような差別が平然と行われていたことにゾッとしました。特に自分の子供の手術を行った男性の話は、本当に怖かったです。また、ハンセン病の歴史は、日本にとって暗い過去でも、残酷なことではありますが、その経験が今回のコロナで、「患者や家族への差別はやめよう」「敵はあくウイルスだ」というようなことが強く提唱されたことに繋がっているのかもしれないと感じました。わたしは小学校や中学校ではハンセン病について知る機会がなかったのですが、実際にそれを経験した人たちが少なくなって、風化してしまったり、また同じ歴史が繰り返されるかもしれないので、もっと学校教育でもハンセン病について取り扱っていくべきだと思います。	この事件は、最初は病気そのものに対する恐怖による差別だったのが、差別に対する恐怖による差別になっていったことを表しているように感じました。国をあげてハンセン病患者とその家族に対する差別を許容していたことが、薬が開発された後も差別がなくなるという、負の連鎖を起していたと思います。	患者というのは弱い立場であり、本来いたわられる存在であるにも関わらず、ハンセン病患者は真逆の対応を受けていたという事実が印象に残りました。ハンセン病を患って療養所に入ったのに、病気ではなく環境が原因で亡くなった人がいたり、その環境は患者本人だけでなくその家族の命まで奪っていたというのが、悲惨だと思いました。
8 今まで名前も知らない病気だったハンセン病について、どうい病症があるか、感染率はどうか、その病に対する差別はどんなものがあるか、私たちにその差別を知る必要があるのはなぜかについて知る機会となりました。	以前ならもし私の周りにそういう子がいたら正直言って怖いと思っていたかもしれませんが、でも、私は今ハンセン病に対してちゃんと知識を持ちました。もしその小学校でも同じ知識を持った人がいて、それを伝えることができていたら、こういう事件はなかったと思います。ハンセン病などのよく知られていない感染症によって起こる差別を減らすためには皆の関心や学習が必要だと分かりました。	結婚しても子孫を残さないというところや、極端な隔離でした。人間としての権利がないと思います。

<p>9 ハンセン病について詳しく知ることができ、嬉しいです。特にハンセン病患者やその家族をめぐっての事件など歴史を事細かに知ることができたのはとても大きかったです。ありがとうございました。</p>	<p>日本において教育は権利であると同時に義務です。我が子を大切に思う普通の小学校の親の気持ちもわかりますが、十分な説明を受けたにもかかわらず他人の子供ならひどく弾圧的に拒絶するのはおかしいです。</p>	<p>なによりもメカニズムが解明され直る病気だと分かったにもかかわらず政府はそれを無視して隔離政策を行ってきたことです</p>
<p>10 ハンセン病についての講演ありがとうございました。今まではハンセン病が何か全く知りませんでした。これを機にどうなのか、また、それが社会とどう関わっているかを学ぶことができました。これにより改めて、正しくない知識や差別や偏見がもたらす悪い影響について、現在のコロナウイルスにどう関わっていくかが私たちの課題だと思いました。</p>	<p>安全であるのにも関わらず、個人の偏見等で人生を左右してしまうようなことはよくないと思った。</p>	<p>ハンセン病患者が、刑務所のような扱いを受けていたということ。</p>
<p>11 今回ハンセン病について学ぶのは初めてで分からないことや、知らないことが多くありました。患者さんたちには辛いことが沢山あったのだと感じました。今考えると普通なことが昔の考えだと差別的な考えがありました。</p>	<p>今考えると普通に受け入れればいいのと思うけれど、当時は何もわからず、親からもよくないと聞いているはずなのであんまりいい気はしないかなと思いました。</p>	<p>子供を生むことができないということが印象的で、命も関係無いのだなと感じました。</p>
<p>12 黒髪小学校での話など、実際にどのような差別や偏見があったのか具体的に知れて、ハンセン病の問題について考える良い機会になりました。私は今まで、自分で調べたことも習ったこともないのに勝手なイメージでハンセン病は怖い病気だと思っていました。今までの私のように、よく知らないのにハンセン病は怖いものだと思ってしまうことが差別に繋がってしまうと思うので、まずは正しい情報をきちんと知った上で、他人事と考えずに自分の身に起きたらどのような行動をすることができるのか考えることが大切だと思いました。</p>	<p>ハンセン病は移る病気ではないし、子供たちには何の問題もなく、地域の小学校にいる生徒と同じ状態であるにも関わらず家族がハンセン病患者だというだけで入学を拒否され、たらい回しのような状況になってしまったのは本当に悲しいことだと思います。もし私の高校にハンセン病患者を家族に持つ生徒が入ってくるようになったら、断る理由は何もないのでハンセン病は怖い病気ではない、移る心配はないということをきちんとみんなに知らせた上で他の生徒と同じように接してあげたいと思います。</p>	<p>私は中絶手術に立ち会った方の話が特に印象に残りました。生まれるはずだった命が失われてしまうことだけで物凄く辛いのに、その中絶手術に立ち会わなければいけないというのは絶対にあってはいけないことだと思います。差別や偏見は、ハンセン病の方だけでなく家族などその周りの人や生まれるはずだった小さい命までもが失われてしまうことに繋がり、将来の希望が絶たれてしまうのでとても残酷なものです。このような経験をたくさんの方がされてきたと思うと辛いです。今もまだ差別や偏見が怖くて隔離施設から出られない方や家族との関係が絶たれてしまい社会に戻れない方がたくさんいることを知ったので、まずは私たちがハンセン病についてもっと深く知り、少しでも患者さんが安心して暮らせる環境を作ってあげたいと思いました。</p>
<p>13 自分が思っていたよりももっと酷い差別の歴史があったと知りました。(閉じ込めたり、家族ごと差別の対象になったりなど。)コロナウイルスの流行で感染者への差別は辞めようという呼びかけを聞いてそんなことする人はいないだろうと思っていたが、今回の講演会を聞き、実際にあったことを知り、差別防止の呼び掛けは大切だとわかりました。亡くなった方々が亡くなっても尚家に帰れないというのはとても悲しいと感じました。</p>	<p>本人は病気ではないにも関わらず、家族や友達と引き離され閉じ込められ、先の人生全てを台無しにされてしまうことは、あまりにも惨いと感じた。</p>	<p>懲罰房への監禁とそれによる凍死</p>